

# 日本語指導を必要とする児童等の書字指導法 1

神奈川県立保健福祉大学大学院 保健福祉学研究所 教授 笹田 哲

【小学校国語科(書写) 教授資料】この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っています。

## 字形の特徴

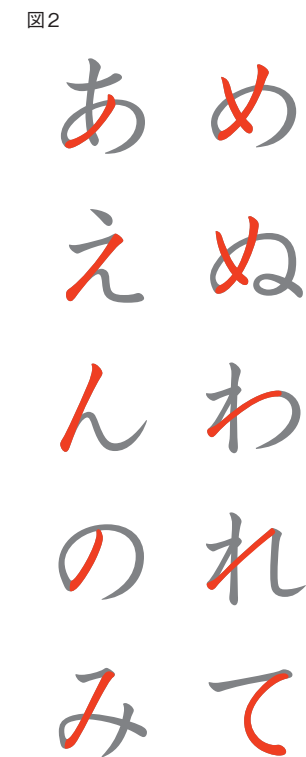
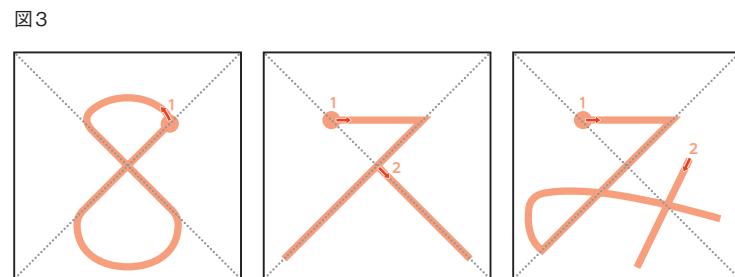
日本語指導を必要とする子どもへの書字指導をしていると、発達障害のある子どもと共通する点がいくつかあります。例えば、以下のような事項です(図1)。

- 1) 「とめ」「はね」「はらい」がうまく書けない。
- 2) 線が長すぎる、短すぎる。
- 3) 曲線が書けず、角ばった文字になる。
- 4) 斜めの線がうまく書けない。



平仮名、片仮名、漢字には、斜めの線が含まれている文字が多いです(図2)。画数の多い漢字は意外と習得しやすく書けるようになります。逆に平仮名がなかなか覚えられません。例えば、画数が少ない「つ」「い」などです。シンプルな文字ほど、字形を整えて書くことの難しさが散見されます。

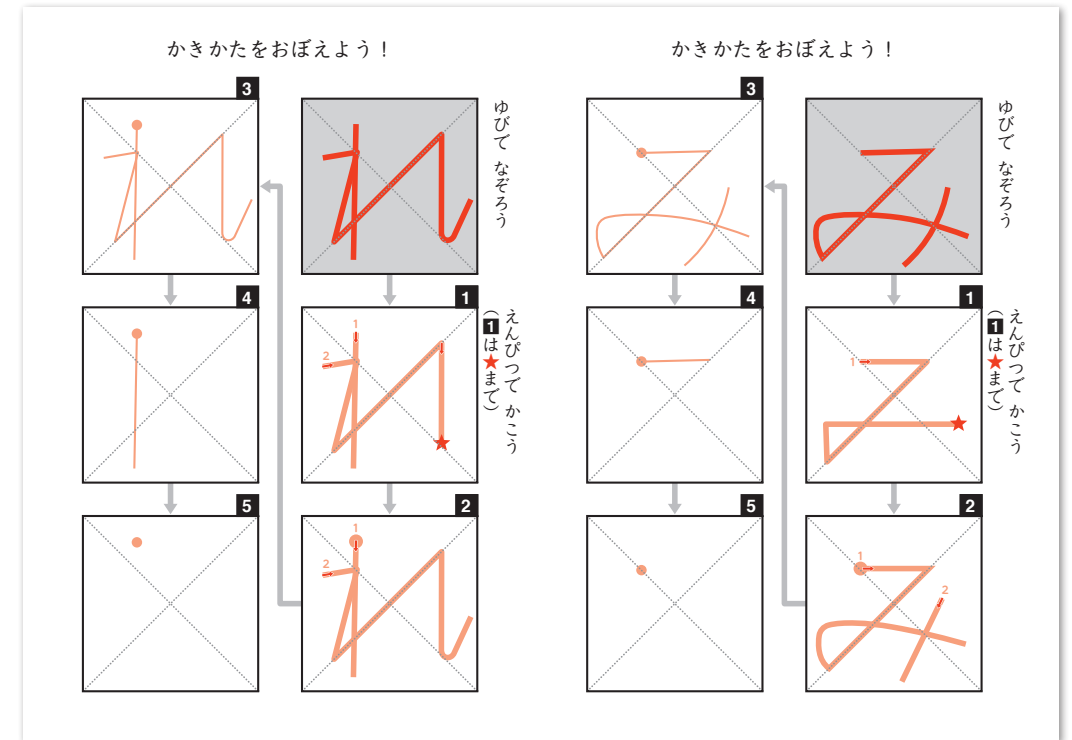
日本語指導を必要とする子どもに対して、既存の学習ノート等で幾度も指導しても、字体が改善され、字形が整うといった効果が十分に得られない場合、斜めますを活用した書字指導法が有効です(図3)。子どもたちと実際に使って指導していくと、子どもによって習得の差はありますが、字体が改善されていきます。



## 斜めますの利点

ますの中に十字線があるのではなく、斜めの線が示されています。このますの中に文字を書きます(図4)。

図4



- ・ 始筆、終筆の位置を対角線上におくことで、字形のイメージがつきやすくなる。
- ・ 対角線があることで、縦線と横線の長さの違いが視覚的に捉えやすい。

このように、斜めの線がうまく書けない場合、斜めますを活用することで、斜めの線の位置、長さを身につけることができます。見本を見るとますの中央に書かれていない文字もありますが、整った文字を書くためのワークシートであり、ますの中心に文字を取めることが目的ではありません。こうすることで、斜線がなくてもますからはみ出さないように、きれいに書くことができますようになります。

## 文献

- 1) 笹田 哲 監修「(DVD版)書字動作が苦手な子に対するピラミッド法による指導プログラム ～字を書く“動き”に焦点をあてた指導法～」ジャパンライム(2017)
- 2) 笹田 哲「気になる子どものできた!が増える 書字指導アラカルト」中央法規(2014)
- 3) 笹田 哲「気になる子どものできた!が増える 書字指導ワーク1 字を書くための見る力・認知能力編」中央法規(2014)
- 4) 笹田 哲「気になる子どものできた!が増える 書字指導ワーク2 ひらがなの書き方編」中央法規(2014)
- 5) 笹田 哲「気になる子どものできた!が増える 書字指導ワーク3 カタカナ・数字の書き方編」中央法規(2014)
- 6) 笹田 哲 監修「入学前からはじめよう 発達が気になる子の『できる』を増やすからだ遊び」小学館(2015)